

JR 東労組が措かれている主・客の取り巻く状況を踏まえて前進しよう！

ここでひとつ措かなくてはならないことは、施策に対し今まで通りの闘いでは組合員を守ることができないという事です。

私たちは「施策実施に関する確認メモ」「新たな30年を展望する施策実施に向けた確認メモ」を背景に様々な施策に向き合ってきました。しかし、組合員が3割となった組織現実の中で、施策を突っぱね議論を拒否することにより一体どうなるのかということ念頭に置かなくてはなりません。18春闘の失敗を省みず、従来通りの闘いを続けてしまえば、先達が積み上げた様々な労働協約の破棄にも繋がりがねない危機感を持っています。他の労働組合の現実を見れば、効率化施策には絶対反対の立場を貫き、一見して威勢良く見えますが、実際は施策は対立の上、一方実施となっています。

こうなってしまうと、組合員の雇用と利益は守れません。しっかりと組織の現実を見るべきです。だからこそあえて時間軸を持ち、労働者の視点を持ち、真摯に会社に向き合おうと中央本部は努力をしています。

こういう中央本部の姿勢に対し御用組合と批判をする者がいますが、「安全・健康・ゆとり・働きがい」をかなぐり捨てた施策を創り出すことは絶対にありません。